

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	小児看護学概論	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員				
科目目標	子どもの健全な成長・発達と小児保健の動向・対策について学び、小児看護の目的、役割、機能について理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	小児看護の特徴と理念	講義	専任教員	
2	2	子どもの成長・発達	GW	専任教員	
3	2	新生児・乳児の特徴と養護	GW	専任教員	
4	2	幼児・学童の特徴と養護	GW	専任教員	
5	2	思春期・青年期の特徴と養護	GW	専任教員	
6	2	子どものアセスメント・家族の特徴とアセスメント	講義	専任教員	
7	2	子どもと家族を取り巻く社会	講義	専任教員	
8	1	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護 総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	筒井真優美監修：小児看護学 第8班 日総研				
備考	小児看護の特徴を理解し、役割を理解する。 子どもの成長・発達を捉え発達段階に応じた関わりができるように、系統的に学ぶ				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	小児臨床病態学	学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師(小児科医師)				
科目目標	成長発達に影響をおよぼす特徴的な健康問題について学び、症状およびその検査・治療について理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	染色体異常・体内環境により発生する先天異常・新生児の疾患 症状と病態生理・検査・治療	講義	小児科医師	
2	2	代謝性疾患・内分泌疾患 症状と病態生理・検査・治療	講義	小児科医師	
3	2	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患・感染症 症状と病態生理・検査・治療	講義	小児科医師	
4	2	呼吸器疾患・循環器疾患 症状と病態生理・検査治・治療	講義	小児科医師	
5	2	消化器疾患・神経疾患 症状と病態生理・検査・治療	講義	小児科医師	
6	2	血液造血器疾患・悪性新生物 症状と病態生理・検査・治療	講義	小児科医師	
7	2	腎・泌尿器および生殖器疾患 症状と病態生理・検査・治療	講義	小児科医師	
8	1	終了試験	試験	小児科医師	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児看護学各論 医学書院				
参考文献					
備考	講義を中心に疾病の成り立ち、症状、病態を理解する。また、それらが障害されたときに必要な検査・治療・処置について学び、子どもの健康問題の経過やおかれている状況をイメージできるようにすすめる。				

分野	専門分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	小児看護学方法論Ⅰ(看護技術)		学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	①専任教員(看護師:臨床実務経験あり) ②臨床看護師(臨床実務経験あり)					
科目目標	健康問題をもつ子どもの成長・発達に応じた療養生活、家族への援助を学び、安全を考慮し苦痛・不安を最小限にする小児看護技術について理解できる。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義	②		
2・3	4	・急性期にある子どもと家族の看護(不機嫌・啼泣・発熱・脱水・下痢・嘔吐・呼吸困難・痙攣・痛み)・災害時の子どもと家族の看護	講義	②		
4・5	4	・救命救急処置が必要な子どもと家族の看護(外傷と事故・トリアージと対応・誤飲・熱傷・溺水・意識レベル・酸素療法・吸引・吸入・蘇生法)・周術期の子どもと家族の看護(子供の手術の特徴・プレパレーション・安全安楽への援助)・先天性疾患のある子どもと家族の看護	講義 演習	②		
6	2	検査や処置をうける子どもと家族の看護	講義・演習	②		
7	2	乳幼児のバイタルサイン測定・検査や処置時の固定(採血・腰椎穿刺・骨髄穿刺・点滴・診察時)・輸液管理・プレパレーション・ディストラクション	講義・演習	②		
8	1	中間試験	試験	②		
9・10	4	・子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護入院中・外来(入院中・外来・感染対策:隔離の目的方法・虐待への気づき) ・慢性期にある子どもと家族の看護(浮腫・出血・黄疸)～小児慢性特定疾患・発達に応じたセルフケア獲得(指導技術)・学習支援と復学支援	講義	①		
11・12	4	・在宅療養中の子どもと家族の看護～医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援・社会資源 ・障害のある子ども(発達障害)と家族の看護・ハイリスク新生児と家族の看護	講義	①		
13	2	・終末期の子どもと家族の看護～子どもの死の概念	講義	①		
14・15	4	検査や処置をうける子どもと家族の看護～薬物動態と薬容量の決定・与薬・経管栄養・検体採取(採尿・採便)	講義・演習	①		
16	1	終了試験	試験	①		
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院					
参考文献	筒井真優美監修:小児看護学 第8班 日総研					
備考	小児各期における成長・発達の特徴を理解し、子どもを取りまく環境に対してイメージでき、小児看護について考えることができる授業とする。発達段階に応じた子どもと、家族を含めた看護について支援方法を学び看護技術を習得する。					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	小児看護学方法論Ⅱ(看護過程)	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員(看護師)				
科目目標	小児期に起こりやすい健康問題とその経過の特徴を理解し、看護過程の展開ができるようになる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	①急性リンパ性白血病患児(終末期)と家族への看護のポイント ・子どもの死の概念・死に対する子どもの反応と援助・子どもへの病気の説明・終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア・子どもの死を看取る家族の反応と援助	講義	専任教員	
			講義	専任教員	
2・3・4	6	<川崎病とネフロゼ症候群を例に以下を講義> ②川崎病(急性期)児と家族への看護のポイント 急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療・発熱と脱水の看護・検査や処置を受ける子どもと家族 ③ネフロゼ症候群(慢性期)児と家族への看護のポイント 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療・病気の時間的経過と急性憎悪・病気による子どもと家族の生活の変化・学習支援と復学支援・子どもの発達とセルフケア獲得への援助 ※情報の整理とアセスメント	講義 GW	専任教員	
				専任教員	
				専任教員	
				専任教員	
				専任教員	
5	2	看護の方向性～発達段階に応じた患児に必要な援助を考える	GW	専任教員	
6	2	グループワーク発表	GW	専任教員	
7	2	援助計画(遊び)立案・検査の事前レポート(心エコー)作成	GW 発表	専任教員	
8	1	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児看護学各論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	筒井真優美監修：小児看護学 第8班 日総研				
備考	小児各期における成長・発達の特徴を踏まえてアセスメントすることができるようにすすめる。				